

めあてを持ち、工夫しながら活動する子

倉 真理子

はじめに

H男は、小学校の障害児学級から本校の中学部に入学し、現在は中学部の3年生である。明るく素直で、クラスの友だちと遊んだり友だちの世話をしたりする模範的な生徒である。また、かなりの努力家で、決められたことや任されたことをきっちりやろうとする。しかし、本生徒と一緒に学校生活を送るなかで、狭い知識しか持っていない、自由時間には何をしたいかわからず、ボーと席についている、自分の身体や生活についての関心が薄く、言われないとしないというような問題点も見えてきた。楽しい学校生活を送るなかで、少しずつ問題点にも目を向けていくことができることを願って、取り組んでいった実践について述べてみたい。

1 プロフィール

(1) 生育歴

- ・昭和57年11月17日生 15歳 中学部 3年 男子
- ・先天性無汗線症 外胚葉低形成症
- ・小学校障害児学級より本校中学部に入学
- ・両親 兄 姉 5人家族

(2) 諸検査による実態

- ・知能検査 全IQ64
(動作性 73 言語性 62)
WISC-R 平成 9年 4月実施
- ・S-M 社会生活能力検査
(表14) 8才 6カ月
他生徒児に比べ、個人内
差は少ないが、やや身辺

表-14 S-M 社会生活能力検査

領域	領域別社会生活年齢														
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
SH 身辺自立 Self-Help															
L 移動 Locomotion															
O 作業 Occupation															
C 意志交換 Communication															
S 集団参加 Socialization															
SD 自己統制 Self-Direction															

自立の力が弱い。意思交換と自己統制の力は比較的高い。

(3) 楽しんでいる姿の特性

与えられた課題には真剣に取り組み、やり遂げた喜びを感じている。また、友だちから誘われると楽しそうに遊ぶ。自分から進んで遊ぶ遊びは、パソコンやテレビゲームで、本生徒の話によると数時間続けて遊ぶことがある。

(4) その他の実態

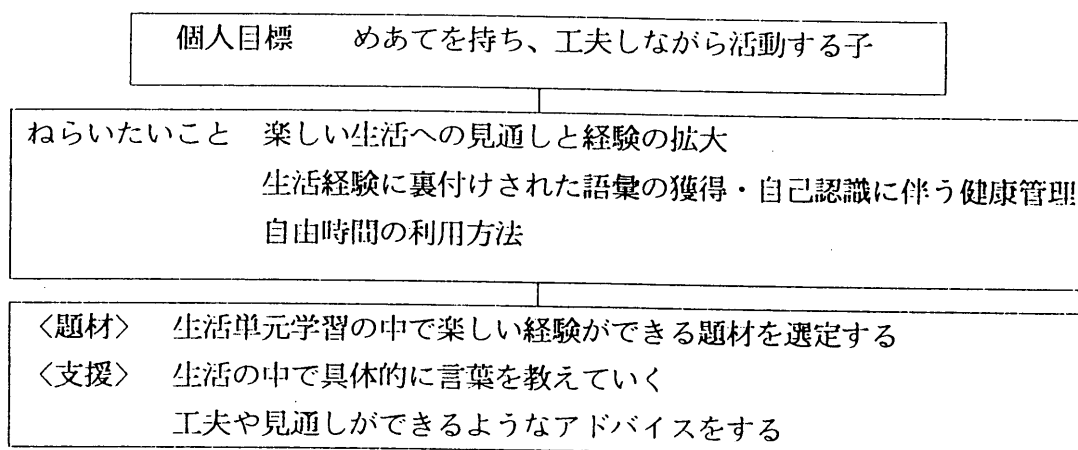
無汗線症なので、暑さや寒さに弱い。平衡感覚や方向感覚が弱く、片足立ちができない。また、慣れない所では一人で目的地に行くことが難しい。自分づくりの段階では、自己客観視のごく芽生えの段階にあり、汗線が無い、歯が少ない、髪の毛が少ない、アトピー性皮膚炎で肌が荒れる等の身体に対する知識はあるが、薬をつける、歯を入れる等の対処を、

自分から進んでしない。また、我慢することが良いことだと考えているようで、自分の体調を訴えたり自己管理したりすることが難しい。人と同じことに安心して取り組む。帰宅後ほとんど家のなかで過ごし、外出することはほとんどない。

2 取り組みの構想

(1) 指導仮説

H男は提示された課題には意欲的に取り組み、成果をおさめている。しかし、自分からしたいことを探し求めたり、先を見通して自分の体調を管理をしたりすることが難しい。このようなH男にとって、問題意識を持って自分から行動を起こし、意欲的に取り組めることが大切だと考えた。そのためには、自分のめあてを持つことによって自主的な取り組みや見通しが期待でき、さらに自分なりの工夫をすることによって自己客観視につながっていくと考える。そこで、以下のような研究の構想を立てた。



(2) 指導方針

- ① 揺さぶりをかけ、パターンを崩し、新しい体験を積むことができるようにする。
- ② 気持ちや状態を言語化する機会を多く作り、指導の場とする。
- ③ 友だち同士で楽しめる機会を多く持つ。

3 指導の実際

(1) 楽しんで取り組んだ生活単元学習

友だちと一緒に活動することをとても楽しめ、生活単元学習のいろいろな場面で、準備や練習に励み、当日に臨んだ。

① 楽しんでいた様子

<p style="text-align: center;">炊飯遠足</p> <p>昨年の炊飯遠足でも火の係になり、火がおこせるようになったという理由で火の係になり</p>	<p style="text-align: center;">校外学習</p> <p>準備の段階では、意欲的に見学先の博物館や歴史館を調べたり、バス代を計算したりした。</p>	<p style="text-align: center;">修学旅行</p> <p>見学地の原爆ドームや資料館について詳しく調べたり挨拶文を考えたり少しのアドバイス</p>	<p style="text-align: center;">大山宿泊学習</p> <p>中学部の縦割りグループの副班長になり、下級生の世話をしなればという自覚を持って</p>
---	--	---	--

取り組みの段階では意欲十分であった。M男と一緒に楽しそうに火をおこそうとしていた。

当日は、博物館の展示物、特にナウマンゾウの骨をみて感動していた。

でどんどん活動していった。当日も在来線や新幹線の中で非常に楽しそうにしていた。

いた。大山の地図を作ったり散策のコースを決めたりするとき積極的に活動していた。

このように、ほとんどの場面で、めんどろがったり嫌がったりせず、周りの様子から自分の行動を判断し、真摯に取り組んでいった。しかし、いずれの行事も暑い日だったり、体調が悪かったりして途中気分が悪くなるが多かった。



大山で土産物屋を散策するH男

② 行き詰まった問題

炊飯遠足

練習の日も当日も暑い日で、しかも火の前にいたためすぐに気分が悪くなってしまった。

校外学習

休憩時間があったにも関わらず水分補給をしようとしなかった。

修学旅行

広島交通科学館で自転車こぎに熱中して暑くなり、気分がわるくなった。

大山宿泊学習

数日前から風邪気味で当日発熱し、1日目の夜帰宅。楽しみにしていた登山や鬼っころんどに行けなかった。

本人は、暑くなり気分が悪くなりそうだったら、冷やしたタオルで首筋を冷やす、涼しい所に行く、水分を補給する等の方法を知っている。しかし、人と違うことはしたくないという気持ちがあり、アドバイスしてもなかなかできないこともあった。

③ 工夫した役づくり (附養文化祭)

11月22日に行われた附養文化祭で、中学部は「花さき山」の劇を演じた。この劇は、花さき山の物語に自分たちの創作の部分をつけ加えて脚本化したものであるが、このなかでH男は山んばを演じた。山んばはこの劇で重要な役割を占めていて、本生徒なりに工夫しながら演じることを期待し投げかけてみたところ、本人もやる気を見せた。

以下、H男の生活ノートの記述を載せる。

10月24日 生活で役をきめました。自分のいけんが言えてよかったです。

10月18日 山んばのセリフを考えました。いいセリフをおもいついてよかったです。

11月 5日 体育館でおおきな声でセリフが言えたのでよかったです。セリフを少ししかおぼえていません。

11月 7日 動作がうまくできませんでした。

山んばは何歳ぐらいかと考え、「100才」ぐらいのお婆さんだということになった。

11月18日 劇の練習でゆっくりあるけてよかったです。

11月19日 (悪かったこと) げき練習でセリフを早くいってしまいました。



自分が演じた山んばの絵

「ゆっくりセリフと動きができてよかったです」とやり遂げた喜びを表していた。

このように、練習を積み重ね、そのなかで自分が演じる山んばの正体についてじっくり考え、その役になりきろうと工夫していた。そして、当日、真っ暗なステージの岩陰からゆっくりと大きな声で「あや、あや」と呼びかけ、スポットを浴びてゆっくりした歩調で腰をかかめながらでてきた。役に徹したH男の姿は、まるで本物の山んばのようであった。H男も「劇でゆ

生活ノートから

(2) 生活ノートに見る変化

毎日帰りの会が始まる前に、明日の予定と連絡、その日の反省をよかったこと・悪かったことを記入する生活ノートを書いている。そのなかのよかったことの欄に、4月当初は、「神経科検査をしました」「ボタンつけをしました」というように、その日のできごとで気に入ったものを記録していた。その後、よかった理由を尋ねていくことによって「報告会の練習で作文が大きく読めてよかったです」「大掃除をしてきれいになってよかったです」というように、何がよかったかを明確にして書くことができるようになってきた。このことは、自分自身で生活を見つめる機会になり、自分で目標を決定する指針になるものであるとともに、人に分かるように表現することの大切さを認識できるようになっていると考える。

4月30日 休日	果日報の会	体古(リビ)	日記
12月16日 休日	果日報の会	体古	日記
<p>日記 ④サカノのこをよこ 会場のサカノ、二 二十三日 フブフでかたがたんへを 作りました。それかたんへを たき作るのがおもしろい たです。</p>			
<p>日記 ④サカノのこをよこ 会場のサカノ、二 二十三日 フブフでかたがたんへを 作りました。それかたんへを たき作るのがおもしろい たです。</p>			

4 考察と今後の課題

設定された場面で、人とのかかわりや活動を懸命にしようとし、できたことに満足し楽しんでた。また、周りの人の気持ちや状況を判断し、見通しを持った工夫したりして行動することができた。このことは、本生徒のよさであり、成長の糧であったと考える。しかし、本生徒の障害の特徴から、行き詰まってしまうことがよくあった。自分の思いがあって、さっと聞き入れない場合もあったが、本来素直な生徒なので、人に言われればその時は対処できるが、次の機会にその経験を生かすことができないことが多かった。まず、自分で気づくことが大切だと考える。そのためには、自己を少しずつ客観視できる機会をより多く設定したい。例えば、一日の生活を振り返り、生活ノートのよかったこと・悪かったことの欄に記入したり、単元毎に反省する場面を大切にしたりしていきたい。

H男にとって、余暇利用、生活経験の拡大の問題は、まだまだ、これからの課題である。